

# 第2章 基本構想

## 第1節 将来像

# 私たちがいきいきと暮らし、 つながりの力で輝くまち小布施

小布施町が目指すまちの姿を明確に示すこと、その将来像を町民、地域と共有し、共に手を携え取り組むことで、これからの新しい未来、新しい小布施町を創ることができます

今までも、そしてこれからも、まちづくりの主役は、この町に暮らす私たち一人ひとりです。

そして、これまで引き継がれてきた小布施町の歴史、文化、伝統を未来につなげ、私たち一人ひとりが「これからも小布施町に住み続けたい」と思い、それぞれの幸せを追求・実感できることが大切です。

私たちが、小布施ならではの歴史文化が息づく美しい町並みや農村風景の中で、人や地域・コミュニティとの交流を楽しみ、つながり合いながら、その人らしさが尊重され、自分らしくいきいきと過ごすことで、周りの人々がその活力と魅力に引き込まれ、将来にわたって賑わいが続いていくまちを目指します。これが、第七次総合計画が描く小布施町の将来像です。

## 将来像に込められた思い

- ・ まちづくりの主役は、小布施町民の「私たち」
- ・ 地域のつながり、人と人とのつながりを大切にし、小布施町に暮らすことに一人ひとりが誇りや幸せ、安心を感じられるまち
- ・ 住む人がいきいきと暮らすことで、その活力やポジティブな雰囲気が、まちの外へも伝わり、それに人々が呼び込まれるように自然と賑わいが生まれるまち
- ・ 四方を山や川に囲まれ、農業が息づく緑あふれる風景を守り、自然と調和した暮らしと景観を大切にすまち
- ・ 先人たちの築いた文化や気風、伝統を継承しながら、小布施町に暮らすすべての人が健やかに自分らしく生活していけるよう、新しい未来を共に創造するまち

## 第2節 基本理念

---

基本理念は、まちづくりに対する取り組み姿勢を示すものです。町では3つの基本方針を掲げて、将来像の実現を目指します。

### 1 【暮らしを豊かに】居心地よく住み続けたくなるまち

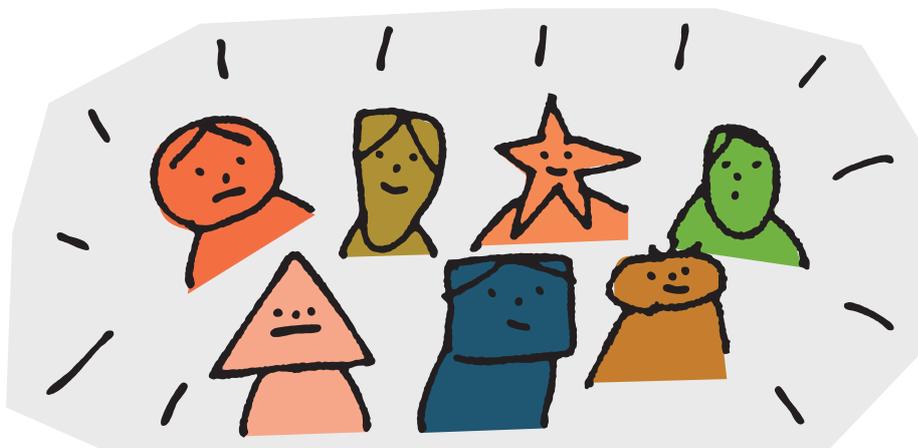
町では、これまで住む人の暮らしを第一に取り組んできました。私たちが穏やかな日常生活を過ごすためには、生活に関わるインフラの整備・充実のほか、災害や健康、事件・事故、そしてその人自身が生まれながらにして持つ権利などに対する心配事から解放されている環境が必要です。快適で心地よいまちは私たちにとってだけでなく、訪れる人にとっても安らぎを感じさせる魅力となります。小布施町に関わるすべての人が心地よさや住みやすさを感じ、安心して安全に暮らせるまちを目指します。

### 2 【共創・協働】誰もがまちづくりに積極的に参画するまち

町が抱える課題の解決や目指すべき将来像を実現するには、私たち一人ひとりのまちづくりへの参画が不可欠です。町政情報を積極的に発信し、課題解決に向けて町民と行政が情報を共有する開かれた町政を推進するほか、町民との対話を積極的に行い、これまでまちづくりに関わっていない人やこれから関わる人を含め、多様な価値観、信念を持つ人が集まって話し合い、協働によってまちづくりを進めます。

### 3 【チャレンジ】未来に向けて挑戦し続けるまち

オープンガーデン事業や大学との協働、若者会議やバーチャル町民会議、HLAB<sup>\*7</sup>などに代表される、これまでの時代を先取りした取り組みの精神を継承し、人口減少や少子高齢化、技術革新など、目まぐるしく変化する社会情勢の中で、今後も持続的な生活環境、地域社会、経済を実現するためには、時代の潮流を的確にとらえることが大切です。これまでの取り組みの本質的な部分は継承しながら、既成概念にとらわれず、新たな考え方や方法論の導入と推進を図り、新時代を拓くまちづくりに挑戦していきます。



---

\*7 「エイチラボ」夏休みを有効活用する体験的な学びとして、国内外で活躍する社会人、日本国内、海外の外国人大学生を講師として招へいし、多様な価値観に触れ、自分らしい進路選択について考える高校生向けの夏合宿。

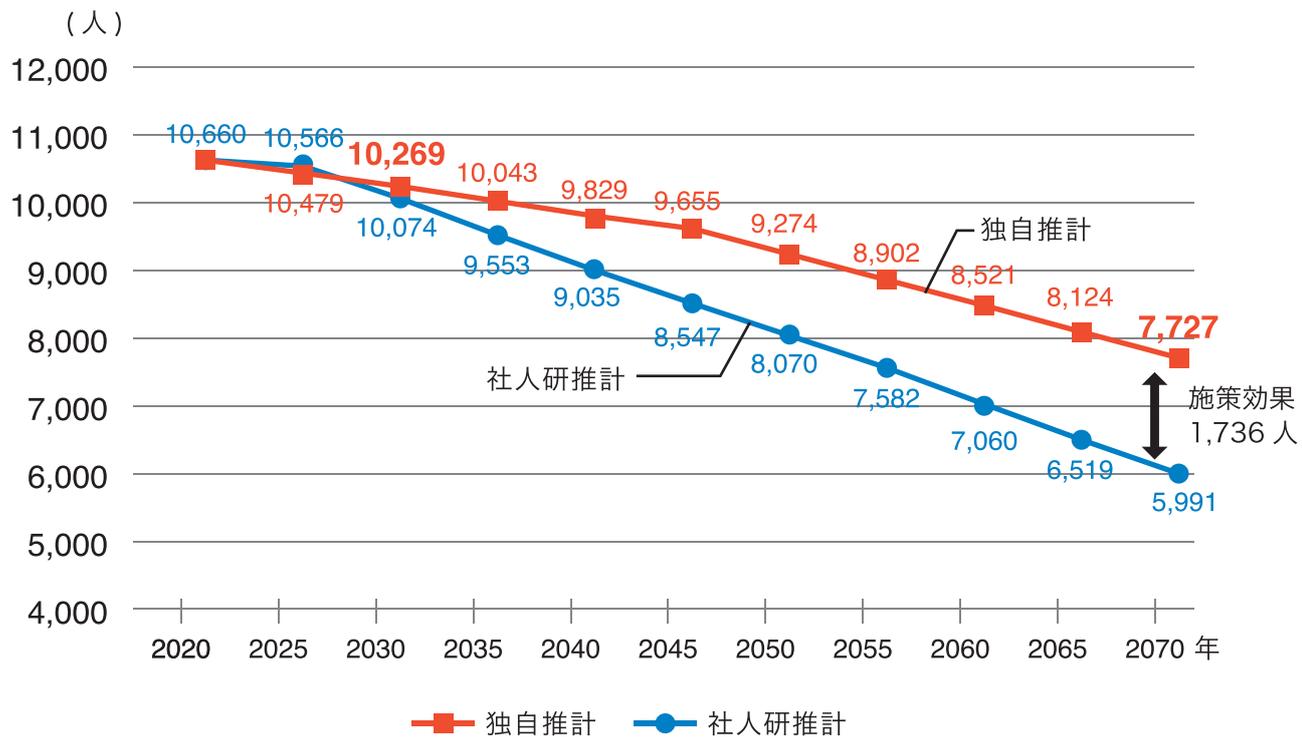
### 第3節 人口ビジョン

第1章で見てきた小布施町のこれまでの人口動向や将来の見通しを踏まえ、2030年（令和12年）の人口の将来展望と目標を示します。

人口減少が避けられない社会情勢の中で、2019年（令和元年）から2023年（令和5年）の期間で子育て世帯年平均17世帯68人が転入超過となっており、特に転入者の居住場所の確保に関して宅地開発が大きく寄与していると考えられます。しかし、第3章で触れるように、計画的な土地利用の観点からも、基本理念をモットーに将来像を目指すことで、転出を抑え定住を促進していくことも重要です。

このことから、町では、10年後の2035年（令和17年）に人口1万人を維持するため、2045年（令和27年）まで毎年子育て世代12世帯48人の転入超過と、合計特殊出生率1.51\*8を維持し、**2030年（令和12年）は国勢調査人口10,269人を目指します。**

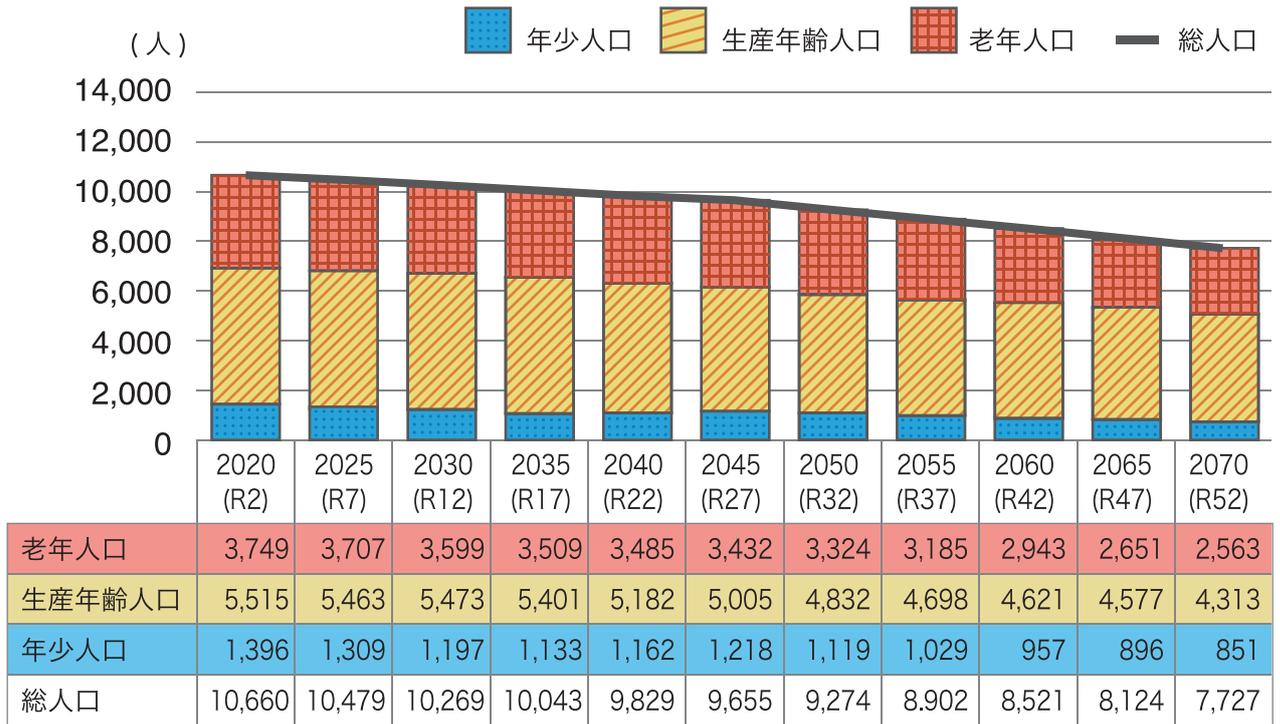
項目	基準値（2020年（令和2年））	目標値（2030年（令和12年））
国勢調査人口（10月1日現在）	10,660人	<b>10,269人</b>



※「社人研推計」とは、社人研（国立社会保障・人口問題研究所）「日本の地域別将来推計人口（2023年（令和5年）推計）」に準拠した内閣府提供のワークシートに示された推計値。将来の生残率、純移動率、子ども女性比及び0～4歳性比の各指標を利用した推計（コホート要因法による将来人口推計）を行っているものです。

\*8 2018年（平成30年）～2023年（令和5年）の人口動態統計の出生数及び死亡数、並びに2020年（令和2年）国勢調査による日本人人口を基に作成。

### 独自推計 年齢3区分別人口の推移 (2020年(令和2年)～2070年(令和52年))



※推計値は、小数点第1位以下を四捨五入しており、年齢3区分別人口の合計が合わない場合がある。

出典

2020年：国勢調査、2025年(令和7年)～2070年(令和52年)は独自推計

### 独自推計 小中学校1学年の平均人数の推移 (2020年(令和2年)～2070年(令和52年))

町では、第五次総合計画から、1学年平均人数100人を目指してきました。独自推計では2030年(令和12年)に88人となる推計ですが、社人研推計(国立社会保障・人口問題研究所による、日本の将来推計人口)と比べると、2070年(令和52年)には15人の差が見込まれます。将来に向けた意欲的な目標として、第七次も引き続き1学年平均人数概ね100人を目指します。

